

【資料2-2】

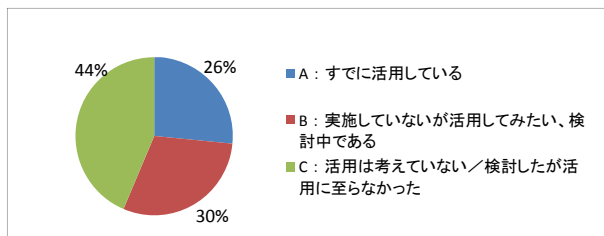
「Twitterアカウントをお持ちの「大学教員」に対するアンケート調査」
及び「Twitterアカウントをお持ちの「大学職員」に対するアンケート調査」
自由記述回答一覧

本編は、上記調査のなかで「自由記述」として任意でご回答いただいたものを全編収録したものです。

＜教員に対する設問＞

【質問5】あなたは講義や授業でTwitterを
活用していますか、また活用できると思いますか

	総数	割合
A:すでに活用している	23	26%
B:実施していないが活用してみたい、検討中である	26	30%
C:活用は考えていない／検討したが活用に至らなかった	38	44%



【A:すでに活用している】教員の回答

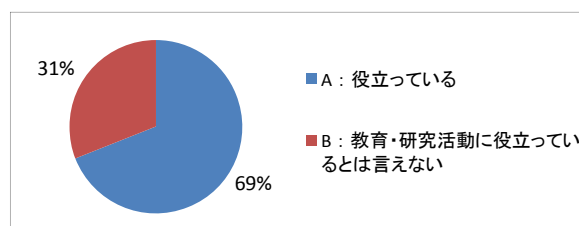
アドバイザー学生とのコミュニケーション円滑化、ソーシャルメディア活用の演習
既に活用しています。授業でクリッカーとして用いたり、授業後も議論が続いたり、ゼミでの連絡、情報共有、学生へのケアなど、他領域で活用しています。
講義で話した内容を標語的な短い文章にしてつぶやいている
受講生・学内関係者への連絡が主な目的。ゲストを招いての特殊な形態の授業、受講生への詳細・緊急な連絡が必要な時に用いている。また、受講生からのフィードバックの機会ともなっている。
学生とのコミュニケーション。事務連絡、参考文献・イベント等の紹介。コメントカードの代わり。雑談。
講義にともなう質問回答と補足情報の配信。
授業中に、意見、感想などを書かせている。その内容を授業中に取り上げたり、授業終了後にまとめた上で回答したりしている。
Twitterを組み入れた地域オンラインメディア構築メディアデザイン実習での活用
講義中に喧かれていた疑問等への対応。研究室の垣根を超えた交流やゼミの実施等。
授業レポート代わりの小課題として学生にTweetしてもらい、参考資料へのリンク誘導、外部聴講者へのお知らせなど
課題の指示ならびに個別レポート課題から学生全体への共通の指示の提示、オフィスアワーの補完として行動予定の提示
授業等に対する質問受付
ロコミカ力の広がり
学生に授業中の感想をつぶやかせる。学生に課題を提示する。
twAudioと連携させて、発音課題の提出とフィードバックに利用しているが(音声学)、試用段階。
質問や意見を受け付ける。出席の代わりとする。小テストないしミニレポートとする。
ゼミ生間の交流。
学生の反応を得る
事象の予測
講義、演習に関する掲示への誘導。
学生アンケート、学生との質疑応答
学生とのやり取りとその可視化

【B:実施していないが活用してみたい、検討中である】教員の回答

講義のバックチャネルとして
学生の興味関心を授業内容に誘導するツールとして
講義に関する学生とのやりとり
授業の感想などを受け付ける
授業アンケート
授業や課題演習での質問対応
総方向授業の一環として活用してみたい。学生に挙手を求めてもなかなか手を挙げないので、意見表明のハードルを下げたい。
授業内で議題や課題を与え、Twitterを使って議論、回答させる。
学生からの意見を集めたい
受講生全員の登録と、授業内容への応答。ただしMoodleでもうまいかないので、Twitterはハードルが高いかもしれない。
学生との学問上の交流、授業実施における改善を図るため
情報を取得し、その情報を授業で活用したい
受講生とのコミュニケーションツールとして。現在はGoogleドキュメントのアンケートフォームを利用している。
学生の質問を受け付けてその一覧を表示して双方向のコミュニケーションを成立するため
マニュアルを配布して使用を促しているが、積極的なプロモートはまだしておらず方法を考えているところです。
実習の進捗状況を公開し、情報の共有を図る。
MLの代わり
学生によるプロジェクト広報や説明の訓練など。
科学最新情報収集に絶大な力、その生かし方を示したい。講義、セミナーなどで、ネットとつないで。
特に大人数授業などで、その場で質問や意見などを声に出せない場合、ツイッタの授業用ハッシュタグで意見を述べて、教員が適宜それを拾い上げる、など。
地域ブランディングの発信メディアとしてUstreAmとの連携を軸にTwitterを使用した授業を行う予定
講義時に紹介した補足情報や卒業生と在学学生との連続継続。
質問などの受け付け、学生の普段の生態の調査
学生との連絡
教員から学生への情報の提示。授業内のトピックについての議論。事務連絡など。
学生にツイッターを使ったポートフォリオ作りを教えてみたい。ツイッターを使ったコミュニティ作り。学生のITリテラシー向上とソーシャルネットワーキング能力の向上。

【質問6】Twitterはあなたの教育・研究活動に役立っていますか

	総数	割合
A: 役立っている	60	69%
B: 教育・研究活動に役立っているとは言えない	27	31%



【質問6-1】

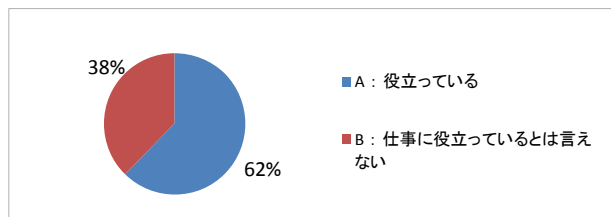
具体的にどのような事が教育・研究活動に役立っていますか

専門分野に関する話題にどのような反応がなされているかが分かる。
学生ニーズの把握、学生の情報発信力の演習
ゼミ生間における時間・空間・学年・境遇を越えたコミュニケーション。
情報収集、学生とのコミュニケーション、授業での議論、その他他領域
業界の動向を把握する
・他者から刺激を得られる（研究者云々ではなく、仕事という意味での一般論として）公開の場で小さな目標設定を宣言することは、自らのスイッチを入れることにもなる（若手さんむけ）
他大学・教員や、学生の最新動向が掴めている。
専門分野関連の情報や意見を知ることができる。
ディスカッションなどで登録外学生などに授業の周知を行うなど、迅速な連絡が可能となっている。また受講生とのコミュニケーション、他の教員のツイートなどが参考になっている。
自分の研究活動を広める一つのチャネルとして注目してもらえている。
学生とのコミュニケーション。限定的だがゼミ、大学の宣伝（客寄せ）になる可能性。文献やウェブサイトなどの情報収集。
情報収集、交換、授業以外での学生との交流。
自分の思いつきのメモとして役立っている。
授業のフォローアップと学生からのレスポンスを知ることができる。
特に教育に関しては、他大学の教員などがどのような取り組みをしているのかが見えてくる。
研究者の情報を収集できるのに加え、異分野の研究者とのつながりができる。また、学生の生の活動を把握することができ、教員としての対応を考えることができる。
メディア以外の情報の取得
それ自体を目的としているわけではないが、自然と有用な情報が得られている。もちろんfollowing/followerに大学教員やその他の研究者が多いのは事実。
networking 情報収集
フォローしている人の最新の研究・教育活動を知ること、自らの活動への刺激を得ている。
各種の学術イベントや、出版社の新刊、書店のフェア開催など、情報を得ることができる。また、他の研究者の研究動向なども知ることができる。
隣接他領域研究者の動向が分かるため。
情報交換を通じてアイデアが浮かんだりする。
研究者が関心を持っていることやイベントなどの最新情報が得られる。
優秀な研究者や同じ若手の研究に関するつぶやきを見てると、自分もやる気が出る。
多様な人と簡単につながれる。そのことは、多様な情報を得ることにつながっている。
研究上のメリットとしては、同業種の人々との情報交換が活発になったことに加え、近接業種の方々からヒントになる発想を直接もらえるようになった。教育上のメリットは現時点ではまったくない。
研究動向の情報収集
最新の研究情報が手に入る。また、これまで知らなかった研究者と交流できる。
学生の興味を喚起する点において。
直接質問する程じゃないけど悩んでいる学生への対応や、研究室の垣根を超えた交流。
学生とのコミュニケーションチャネルが増えた、というだけでも大きな成果。対面でのコミュニケーションよりも垣根が低く、メール等より即時性が高いので、頻繁なコミュニケーションが実現できている。
授業の関係者ではない人が対話プロセスに介入することでの知的触発など、程よいオープンネスとスピード感もたらず可能性は計り知れない
書籍のレビューのようなつぶやきを参考にしている
情報収集が進み、大学と臨床との接点ができている。
webで検索するより早い場合がある
少しずつでも講義記録や考えたことを書いていけるので書くことに負担がかからない。ツイートレターサービスを使って翌日ツイートを読みながら考えをまとめなおすことができるのがよい。
具体的な教育成果までは出ていないが、学生が気楽に感想を述べたり、自分の不安を吐露することができ、教員もそれに繋がることことができる。
英語教育やICT活用教育に関わっている人たち（英語利用者の）twitter上で活動が活発で、ケーススタディの報告や、学習活動やツール活用のアイデアなどの情報が得やすい点もとても役に立っていると思う。
事業仕分けや文科省の審議会等に関する情報交換
参考情報の入手、新しいメディアの活用、及び学生参加の拡大
実験システムの一部として活用している。
予測
各種の情報共有
他大学研究者の動向を知ることができる
研究動向や企業情報などをリツイートすることで、フォロワーの(アクティビティの高い)学生の学習動機を高められるほか、就職活動の糸口を示し準備を促すにも役立っている。
交遊範囲以上での議論や、シンポジウム等の発見。また、稀有な人材との巡り合わせ。
話題が増える。
科学最新情報収集、最新の学会、科学技術行政などの世界動向把握。注目される情報を意見付きでコミュニティへ再発信。
研究情報をキャッチすることができる。資料や、研究会、学界動向など。
ライフスタイルのデザインングという側面からみた新しいメディアとしての研究素材
異分野の先生方の考えがチェックできること。
研究や教育に必要な情報の入手が容易になった。
人との連絡が素早くとれる
大学・学界以外の社会とのコミュニケーション
新しい情報が得られることが多い。
世界中の国際教育担当者の行っていることを知ることができる。また、有益なウェブサイトをしることができる。このアンケートも然り。
情報を手に入れるために費やす時間が部分的に減少した。

<職員に対する設問>

**【質問6】Twitterは大学職員としての
仕事に役立っていますか**

	総数	割合
A:役立っている	43	62%
B:仕事に役立っているとは言えない	26	38%



【質問6-1】

具体的にどのような事が役立っていますか

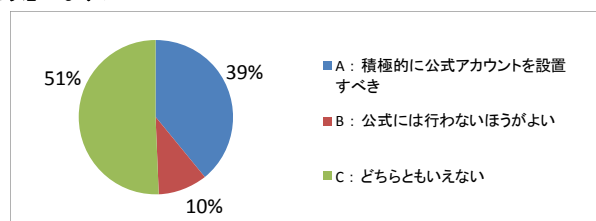
医療、福祉業界の最新動向を探知できる。
人脈の構築
他大学の職員との接点になる。
様々な情報が得られる
twitterがなければ会えなかったであろう人に会えたこと
このアンケートの実施についてもTwitterで知った。
他大学の動向や就職活動のコンサルタントのつぶやきや経済状況は、学生への支援でも役立つ。
一般情報にせよ、大学関連情報にせよ、いろいろな視点からの情報を幅広く、迅速に入手することができる。
学内の先生を捕まえるときに利用。携帯やメールより確実に連絡が取れたりします。
他大学の職員の考えを知ることができたセミナーやシンポジウムの情報が入手できた知り合いを増やすことができた
情報入手の即時性
情報発信に際し、アンテナを張ることや限られた時数でのコミュニケーションも、広報担当者としてはとレーニングになる。
教員をフォローすることによって、職員とは違った視点の業務に関する考えを知ることができる。
他の大学関係者と交流があった(web以外でも)
勉強会などの情報や、専門家からの情報が得られる
本音の情報収集
卒業生がフォローしてくるなど、広報業務に役に立っていると思う。
情報収集、問題提起、議論、人脈形成、連絡手段
他大学の情報収集業界の動向調査
大学に関連するニュースがツイッターを通じて得られるので、他大学の取り組み、文科省の動きなどを知ることができ、自身の大学で企画などを立てるのに役立っている。
所属を超えた情報交換
他大学の話題が入ってくる
他大学の取り組みなどが書かれている。
他部署の人がどのような仕事をしているかわかる。仕事で相談事があれば不特定の人からアドバイスを得られる。学生や研究者が普段のようなことをしているかわかる。
・教員、学生等の意見の把握。・図書館員を含む大学職員間の人脈形成。
SNSやブログなどではある程度予測可能な範囲からの反応が多いが、ツイッターでは想像もしてなかった人からRTなどがついて、プレスリリースとしての効果が高く、また「つながっていく」感が強い。
シンポジウム開催のお知らせなど、自分達の活動の宣伝になっている
情報収集のスピードと幅の向上
他の大学における業務(キャリア支援)の事例を知ることができる。教育行政の動向について、正規の情報伝達ルートよりもはるかに高速かつ確に情報を得ることができ、他大学のTwitterを活用した教育や事務処理での試行運用などを調査するのに役立つ。
他大学の情報を、いち早く入手することが可能
学生との直接対話できる。学生の不満が分かる。イベントや活動のRTによる学内の新たなつながりの形成→学内の活性化に貢献できる。
大学関係のニュースが素早く手に入るため。
業務についての悩みをつぶやいたところ、同じ業務をしているフォロワーからリプライがあり、業務改善につながった
情報収集や、ネットワーク作り。
Twitterというメディアそのものの理解・研究やニュース収集のツールとして
自分の業務に直結しているわけではないが他大学の教職員がTwitterをどう使っているかをリアルタイムに知ることができる点。
自分の勤務している大学以外の情報や、様々な立場の方の意見を得ることができ、自らの視野を広げる一助となっている事
情報システム担当なので、どのような情報流通をしていけばいいか、参考になる
大学に関する情報(他大学の動向等含め)を知ることができること。
他大学の情報等知ることができる。また、一見大学に関係ないような取り組みにも業務をリンクして考えるきっかけや「きづき」をつくりやすくなること。

<教員・職員に共通した設問>

【質問11】大学として公式にTwitterアカウントを開設、運用する事をどう思いますか

<教員>

	総数	割合
A:積極的に公式アカウントを設置すべき	34	39%
B:公式には行わないほうがよい	9	10%
C:どちらともいえない	44	51%



【質問12】上記「質問11」でそう回答した理由を教えてください(任意)

【A:積極的に公式アカウントを設置すべき】と回答した方のご意見

情報公開の手段として積極的に活用すべき
リスク管理さえすれば、広報手段としては安価で有効。
大学もサービス産業。発信は積極的・大量にすべき。取捨選択・フィルタリングは受信者側の方で自由にすれば良い。
小規模大学においては、全学生、全教員がつながっていることにより、多重な学生へのサポートが可能になる。
志願者数・支援者数の増加。
大学アカウントでも「w」等が利用されているように、肩肘張らない広報が可能。リアルタイムかつ総方向な情報提供が可能。
情報を発信・受信する機会が大きくなるから。
本学の事例から各大学の益に供するところは大きいと感じる。また、大学間の連携(とりわけ同じ地域の地方大学同士など)には効果が高いと思う。
広報のチャネルとして積極的に活用すべきだから。
オバマ大統領がTweetしているこのご時世、大学が発信しないでどうするのだ、という気持ちがある。とにかくあらゆることが遅すぎる。
一般に開かれた窓口のひとつとして活用できる。
大学広報を実施するうえで、さまざまなメディアを活用すべき。基本はWebへの誘導でいい。
情報提供の一手段としてTwitterを利用していいように思う。
重要な広報手段になりうるため。
大学の広報も、時代時代のメディア環境に積極的に適応していくべきと考える為。
受験生からの疑問等に答えることは、情報公開の一つの手段となりえる。
広報活動の潤滑油として。
もはや無視できないし、なりすましアカウントなどもあるから。
情報提供手段は多い方がいいから。ただ、コストとの見合いがある。
Twitterは、新しいメディアであり、大学はメディア上でアカデミックなその姿勢や方針、態度、可能性について常に宣言し続けなければならない。
大広報、コミュニケーション革命の時代
大学が発信するチャンネルの種類は、より多い方がいい。大学や学部、学科のHP、研究室等のブログに掲載されている情報は、吟味され、練られた、「積分」された情報。Twitterでつぶやくことによって「微分」された情報を発信することによって、より大学の中を知ってもらい、入学を考えている人ノその地域に住んでいる方々にとって、より身近に感じられるきっかけになり得るだろう。大学の中で何が起きているのかわかれば、学外からも意見をいただくことができ、大学も学外や地域のニーズを正確に把握する一助になるだろう。Twitterは何も悪いことはない。リスクもあるだろうが、まずはやってみればいい。やらないよりまし。
学生に便利だから
Twitterは受信より発信する事に意味がある。
費用対効果をも考えると、告知のためには、有効な手段であるから。
大学の情報を社会に発信し、さまざまな交流を促進するとともに、学生募集につなげる可能性があると考えから。
ソフトバンクの孫正義のように、普段は取り上げられない個人の意見をダイレクトに取り入れて、それを組織・システム・サービスの向上に役立てることができる。
Twitterに限らず、ソーシャルメディアの活用により、大学の活動がより広く周知されるべきだから。

【B:公式には行わないほうがよい】と回答した方のご意見

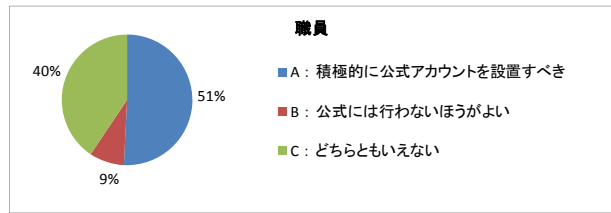
まだまだ未成熟のメディアで流行りだからと公式にするのはいかがなものかと思う。
公式にやるとつまらなくなりそう
広がりを見せている間は、草の根で勝手にやって貰って、出てきた面白い使い方や試みをとて公式が追いかければよい。
Twitterでの発言は自由なもので、大学として公式アカウントで自由な発言はできないない！ましてや過去に強姦事件を起こしたことの某教育大学では尚更であるorz
大学としての公式な情報発信はツイッターではなく公式Webサイトやニュースリリースで行うべき。ツイッターは組織の公式な情報発信には適さない
発信するほどの情報を持っていない。高校生が勤務先のような任期のまりない大学をフォーリーするとは思えない。
短い文章であるという利点はるが、それ故、誤解を生じかねない。
大学という組織なら、Twitterに限らずいくらでも方法はあります

【C:どちらともいえない】と回答した方のご意見

Twitterを一つのメディアと考えると、大学全体でのメディア広報ポリシーとの整合性で活用を検討すべきものであるから。
現在の職場の場合、提案者がそのまま負担させられる可能性が高い。仕事の多い者がさらに仕事を増やす結果になるとすれば、利も理もない。
責任体制が整うかどうかの問題であるのと、現状では効果が不透明であるから。
メリット、デメリットの考察が必要
使い方による。
大学としてというより、メディアセンター、メディカルセンター、事務など諸部門がアカウントを開設したほうが、わかりやすい
広報の一つのメディアとして有用性はあると思うが、本学のスタッフでは対応できないため。
設置するだけでは意味がない。また、有用な情報が提供できればよいが、単に広報的な内容にとどまれば意味がない。
使い次第。「学長ブログ」について調べたことがあるが、有用なもの、あまり有用でないもの、そもそも「ブログ」ですらないものなど多様だった。企業のアカウントでも失敗した例もあり、危険な側面もあるのも事実。
わからないから
「公式」であることを保証する仕組みが確立されているのかどうか知らないため
宣伝にはなるだろうが、きちんとフォロワーを集めようと思った場合、当然職員がかり切りになるわけで、大変かと思えます。
大学の運営に関してまで利用出来るかどうかはまだわかりません
結局、中のひとつによると思うから。
公式にTwitterを運用することによって、その発言に制約が生まれるから
利用目的&方法によります。ただの情報垂れ流し広報活動ならRSSぐらいで十分。
その組織的人格を表現することになるので、できる組織とできない組織がある。組織に属する構成員のコンセンサスがない場合、トラブルの元になりかねないので慎重を要する。それがクリアできるのであれば、協力的な情報発信ツールとなりうると思う。
大規模総合大学であり、おそらく日本で一番有名な大学でもるので、バーチャルで一人の人格として運用することは難しい。とすると、botとかただのイベントお知らせアカウントのようになってしまい、Twitterの面白さが味わえない気がする。
まだ広報手段として安定的に利用できるだけの信頼性があるとは思わないから。
事務局に活用できる能力があるとは思えない。
マンパワーを割くことになるから組織的にやるなら目的を設定してコストパフォーマンスを検討すべき
ツイッターの効果は認めるが、フォロワーにとって有意義な情報となるのは、つぶやく本人の資質やキャラクターに依存すると思うから、公式であることにまり価値を感じない。
プライベートとオフィシャルな見解が混在する状況と、それに伴い起こると想定される(杞憂であることが多い)問題に、全ての学生および教職員が耐えられるとは思えない。また、担当者への(業務的、精神的な)負担は大きく、担当者になる程度の「適性」が必要と考える。
問題は運用にあるから。単にアカウントがあれば良いというのではなく、運用者の資質及び運用方法が一番重要。その思想がないことにはTwitterを利用する意味がなく、逆にリスクになる場合もあるから。
公式アカウントの多くは「面白い」情報を提供していない。面白い情報を常時提供するには、現時点では発信者の才覚と、発信者への適切な権限の委譲によるところが大きい。大学でそこまで踏み込んだ体制を整えられるならば、大きな効果が得られる可能性が高いが、多くはそこまで頑張らないと思われる。
大学によると思うため
大学自体の宣伝・情報公開にはなじまない上に、かなりのマンパワーが必要。特定のイベント、あるいは研究室単位なら有効だと思う。
いずれにしてもメリット・デメリットの両方があるので、個々の大学の文脈に合わせる必要があることを考えるとどちらともいえない。

<職員>

	総数	割合
A:積極的に公式アカウントを設置すべき	35	51%
B:公式には行わないほうがよい	6	9%
C:どちらともいえない	28	41%



【質問12】上記「質問11」でそう回答した理由を教えてください(任意)

【A:積極的に公式アカウントを設置すべき】と回答した方のご意見

情報発信・公開はあらゆるメディアを通じて行われるべきである。
いままでのインターネットのサービスは、メールを除いてすべて公開して待つだけだった。twitterは積極的に発信していくことができる。
情報公開・発信のツールとして運用するのであれば良いと思う。
携帯サイトやブログなど誰も見ない。公式HPへ誘導するツールとして等、用途を明確にした上での利用は効果的なはず
最新情報をタイムリーに発信できるため。
公式の速報はWebページとして存在するが、広報手段は複数あってもよいと思う。
否定する理由がない
二重アカウントでデマを流されるのであれば、公式アカウントで発信したほうが良いと思うから。
各学校の事情・使用意図にもよると思うが、否定的要素が少ないので開設、運用は前向きにしても良いと思う。
情報発信の手段として有益なので
Twitterの効果は大きいので。
外部情報を得ることができるため
しない理由がない
多数のユーザーに半強制的に情報を触れさせられることができるから
情報伝達スピードが早く、広く告知できるから。
教職員・学生とのコミュニケーションに役立つ。大学を身近に感じてもらえる。フォロワーのつぶやきから、マーケティングの材料が得られる。
ブログだとそれなりのものを書くには最低3分以上かかるが、ツイッターならものの1,2分で公開でき、お茶を飲んでる書ける。「業務の中で」となると誰もが取り組みやすいプレスリリース手段であり、これができないんだらWEBなんてやらない方がいい。
その大学のHPを見ていない人にも情報を広める事が出来るから。ただ、本当に公式なのか個人が勝手に語っているのか、見分けられるようにすべき。
入学希望者や社会に対して直接的にコミュニケーションできる手段として、Twitterをはじめとするリアルタイムコミュニケーションメディアは大変有効であるから。しかし、本学の場合はそうしたコミュニケーションを担う人材育成と組織的取り組みが遅れているため、現時点で波に乗ることは危険すぎるかと考えている。
通常のニュースリリースなど、大学が公開する情報をより広く伝えることが可能なメディアであるから。ただし、個人情報の漏洩や意図しない情報の伝達などに十分注意できる運用担当者が必要となる。
無償、かつ迅速に大学の情報を発信できるツールだから
全ての人と意見が合うとは限らない。必ずいろんな立場の人から反対の意見があがる。でも、そういう中で私たちスタッフも最善を尽くしていることを知ってもらいたい。若者のやり場のない怒りをちゃんと聞くことで、新たな大学改革ができるかも知れない。
大学広報の費用対効果が高いため。
津波の時に原口総務相がつぶやいたときのように、緊急情報などを流すのに有効なツールであるから
他大学との情報交換手段や広報手段として効果的と思われるため
リアルタイムでone to one の関係性を構築できる
「積極的に」とまでは思いませんが、大学の取組を社会に知らせるツールとして活用する価値はあると思います。
学生に対してリアルタイムで情報を伝えることができたり、学生をつぶやきを確認することにより、学生のニーズを知ることが出来る等、学生サービスといった面でも大きな効果が期待できるため。

【B:公式には行わないほうがよい】と回答した方のご意見

リスク上の観点から
成りすまし可能である以上、その辺の安全性が確保されないと不安が生じると思います。そうなると個人レベルが無難と考えます。
大学公式といっても、それは広報部門における「外向き」に加工された情報であり、Twitterでなくてもホームページで十分である。
大学組織アカウントはTwitterでは魅力的には映らない。広報担当者アカウントだったら面白い。

【C:どちらともいえない】と回答した方のご意見

アカウント設置に関して、運用方針や担当の問題などが数多くあるため一概には判断出来ない。
活用の可能性は幅広いが、戦略、戦術に基づかない安易な開設は避けるべき。
Twitterはあくまでも特定企業のサービスにすぎず、「公的」「公式」なものがどこまでそぐうのか不明。
よくわからない
情報発信の一環としてあったほうがよいと思うが、twitterの特性上、一般には一方的に情報を流すだけではなく、フォロワーとの相互交流が求められるため、そこを「うまく回せる」体制を構築した上で設置するようにした方がよいと思う。
つぶやき内容の決裁なんかが始まると、即時性が失われる。
大学の規模や、ツイートの内容にもよる。仮に公式アカウントを設置したとしても、学生や教員がフォローしないような内容しかツイートしないのであれば、意味がないと思うので。
公式アカウントをうまく運用するのは難しいと思われる。
きちんと理解しているものがないと思われるので
現時点では、大学が発信するものとしては、Twitterの性格付けが、不分明である。
公式アカウントがどの程度大学にとって役に立つのか疑問
運用ポリシーの確定が困難と思われる。
運用方針や積極性がなければ時にはマイナスとなるので
18歳人口における利用者層がつかめていないため。
広報、IT部門に確認したところ、興味が無いことが判明したため。このような状況で公式アカウントを開発することはナンセンス。
人気はあるとはいえ公器としてTwitterを評価して良いのかまだ判断できる時期ではないと思うから
公式アカウントを設置するのであれば広報のみではなく積極的に全学で利用する体制を構築しなければ効果は薄いと思う。それができないのであれば「広報担当者のアカウント」など、大学公認個人アカウントの立場をとるべき。
職員個人ではなく、組織としての発信となるため、頻繁に情報発信するネタがあればいいが、そうでないことも多い。また、質問等への返信も「個人の意見」では意味がないので、そのための体制が整ってからでないと運用はうまくいかないとと思われる。
業務、教育に利用できるかどうかを見極め起案する為、現状は1ユーザーとして利用しており質問11の内容についてはこれから判断し、提案してゆく段階であるので。
タイムライン上で存在感を発揮できる程度に頻繁な更新ができ、かつ、単に公式のお知らせだけでなくある程度作成者の個性が出たtweetやレスポンスができるのであれば、話題性につながらず、単に作成者の負担増になるだけだと思われるので。逆に上のような条件が整う場合には、やってみるのもよいと思う。

○ 本調査に係わるお問い合わせ

地域科学研究会 高等教育情報センター

担当： 山本 修裕

FAX : 03-3234-4993

E-mail : kkj@chiikikagaku-k.co.jp

URL : <http://www.chiikikagaku-k.co.jp>